

全日本マスターズ開幕。熱戦の第一章

9月の秋分の日をはさみ、21日から3日間、京都のたけびしスタジアム京都を主会場に全日本マスターズ陸上競技選手権の第45回大会が行われた。全国から男女2025人が参加。男子27種目、女子24種目で中・高齢者アスリートが懸命に競技に打ち込み、数々の記録が生まれた。楽しくプレーして、久々に顔を合わせて、お互いに交流を深めた。マスターズ陸上の熱戦第一章。

100歳の宮内義光さん(鹿児島) またも800mと1500mで快挙達成

「人生100年時代」を代表するような鹿児島県の宮内義光さんがM100クラスの800mと1500mで快記録の力走をして、会場を沸かせた。

宮内さんについては10月号でお知らせしたように、8月18日の九州マスターズ大会で800m 8分24秒36の創設世界記録をつくったレジェンド・アスリート。ところが、さらに、さらに、である。今回はそれぞれ、はるかに上回るタイムをアナウンスさせたのだ。

8分09秒74。これにはレースを見守った観客はじめ、選手や審判に当たった人たちがびっくり。だが、ご本人は「8分7秒台を、と思っていたのに残念」との言葉が口をついた。この日は地元から長女のひろ子さん(72歳)はじめ、次女、三女らも応援に駆け付けて声援を送ったが、これが“力水”になったようだ。

1500mは第2日の22日、午後4時50分に火ぶたを切った。高齢クラスの仲間たちとスタートしたが、M100クラスは宮内さん1人だけ。宮内さんはオレンジ色のパンツに白色のノースリーブ姿。白いシューズを履いて、右脚にはサポーターを。「右ヒザは以前から痛くてね」と、ややかばった走りだ。

それでも、あと1周のカネが鳴って、2、3コーナーを回り、4コーナーの半ばあたりからは全力を振り絞ってのラストスパート。そしてゴール。会場からは割れんばかりの拍手が起った。

紀寿の宮内さんの力走ぶりには感動と、勇気をもらった人が多かったはず。

タイムは16分26秒05。この記録は16分46秒41の世界記録を上回り、24年ぶりの世界新記録だ。国内では100歳で1500mを走った人は皆無で、日本マスターズ創設記録となる。

おめでとう、宮内さん。右ヒザの痛みを押しながらの完走。ヒザが悪くても毎朝5時に起きて、ジョギングから始めて、朝食前の朝練が日課。65歳からマスターズ陸上に入会。現在までM70クラスから5歳刻みのクラスで数々の日本記録を樹立してきた宮内さん。

今回、新たにマスターズ世界記録保持者となった宮内さんの食事は「好き嫌がなく、何でも食べるよ」と。一緒に住んでいる長女のひろ子さんの話では「タンパク質が大事なので肉、魚と交互に料理して」と父親の栄養バランスに気を使っているようだ。

今後の目標については「1500mでは予定していた16分台で走れたから、あとは800mで8分7秒台を。105歳までは走りたい」と笑いながら言った。

渥美裕子さん(81歳・滋賀)、 渡川孝子さん(81歳・徳島)が日本新

女子100mは迫力のあるレースが多かった。特に注目されたのがW80クラスだ。マスターズ以前の現役時代、国内の一線級として鳴らした選手たちだ。

同クラスの7レーンに渥美裕子さん(81歳・滋賀)、9レーンには渡川孝子さん(81歳・徳島)をはじめ、4人がスタートラインに立った。

号砲が鳴って、いざスタート。速い。7レーンの渥美さんだ。勢いに乗って次第に2位を引き離しゴールイン。タイムは16秒87の日本新、追い風1.5だった。旧記録はご本人が昨年マークした17秒04だが、今年9月8日、この大会の2週間前に16秒98と16秒台で走っていた。大会記録は17秒96で大幅に縮めた。「昨年はヒザを痛め、リハビリなど1年がかりで治したけど、春先までは痛みが残っていた」と渥美さん。今大会では家族総出の声援が後押ししたようだ。

現役時代を思い起こさせるようなダイナミック走法を見せた渥美さんは旧姓・塩尻。3位になった渡川さんの京都光華高での1学年先輩に当たる。中学生時代から100m、200mで日本中学記録をつくるほどの逸材で、高1でインターハイの100mを制した。

高校生として1958(昭和33)年に東京でのアジア大会で最年少選手として200mに出場。26秒3で3位と健闘して、万雷の拍手を受けた。100mのレースは同じクラスで競う渥美さんと、渡川さんが手に汗の接戦を演じてきたが、今大会では岩間和子さん(81



W75・1000mの日本記録ホルダーでもある渥美さんが、自身の持つW80の日本記録を更新した(ご本人提供)

歳・東京)が割り込み、17秒36の大会新で2位となった。岩間さんの23年度の活躍は分からないが、一昨年は60mと100mでW80クラスのランキング1位となっている。60mは11秒25、100mが18秒48で走った。年齢は80歳。

岩間さんの進出で同クラスの100mが楽しみになってきた。

3位が渡川さんで18秒17と普段よりはタイムを落としている。事情を聴くと「今年、徳島であったマスターズの試合(100m)で脚を痛め、スタートがのろのろとしか出られなかった」とのこと。昨年は山口での全日本マスターズ大会のW80・100mと走幅跳に1位となっている。

今大会の100mのうっぶんを晴らしたのが走幅跳だ。1回目の試技から3m台を出し、最終4回目の跳躍で3m08の日本新、大会新をマークした。風は公認内(+1.7)。旧日本記録は2m94(現時点での公認)、大会記録は渡川さん自身の2m98で、今回初めて80クラスで3m台に乗せた。

今後は「3m20を目指して頑張ります」と力強く。渡川さんは旧性・林。学生時代に400mで日本女性初の1分切りとなる59秒5の日本記録をつくり、マスターズでは第1回大会で女子最優秀選手となっている。



ほかのクラスではW65クラスで高橋葉子さん(65歳・神奈川)が14秒65(+1.5)とご本人が持つ14秒86を更新する日本新、14秒95の大会記録を20年ぶりに破った。W60では鈴木美貴さん(61歳・静岡)が14秒16(+1.4)の大会新を出した。旧大会記録は高橋さんがW60クラスで出していた14秒39だった。

W65で日本新の高橋さんは「体調は普通で日本新を出しましたが、実はこの大会より2週間前の関東マスターズの100mで14秒51(±0)で走り、このときのタイムより悪かったのです」と話す。高橋さんは8月のスウェーデンはイエテボリで行われた世界マ

スターズ大会にも参加。「タイムは覚えていないけど、3位のメダルをもらいました」

58歳からマスターズ陸上をはじめ、これから「100m14秒切り目指して頑張ります」と、陸上教室(クラブ)へ入会して、腕(脚)を磨く熱心さだ。

W70・三段跳で8m台連発 大日向暁子さん(74歳・長野)

女子三段跳で数々の世界記録を打ち立てた女王・大日向暁子さん(長野)が古都のビットに立った。W70クラスにとって、年齢的に不利な74歳。

同クラスの世界記録は大日向さんが71歳で跳んだ8m98。日本記録は世界記録と同じで2021年に出したもの。「あと2カ月後に全日本マスターズがあったら、75歳のW75クラスで出られてよかったのに」と笑いながら挑んだ大日向さん。不利な年齢とはいえ、1回目のファウルを除き、残り3回の試技ともに8m台は圧巻だ。2回目からは8m48(+2.0)、8m53(+2.3)、8m46(+4.3)と、追い風参考だが3回目の8m53で圧勝した。

大日向さんは23年の敬老の日に、あるテレビ局の取材に応じ、何回も跳躍を重ねるうち左ヒザを痛め、今年の6～8月まで完全休養に充てる始末。今回は不満の残る大会となったが、75歳になったら「トレーニングを見直し、いいクラブへ入会して、世界記録の8m18に挑戦したい。また、走幅跳にも目を向け、3m50を目指します。いずれも笑えるような記録を」と笑みを浮かべた。

65歳の時に4m18のW65クラスの日本記録をつくった大日向さんは意欲的だ。高校生のときの66年(昭和41年)、青森インターハイで走幅跳に5m66で高校一になった大日向さん。情熱はまだ衰えていない。

参加者数が多かった都道府県 種目で参加者が多かったのは

閑話休題。

今大会で参加者数が最も多かった都

道府県はどこ? トップは大阪だ。男女合わせて172人がトラックへ、フィールドへ。2位は愛知で147人。3位に開催地の京都で141人。次いで神奈川の133人、東京の128人、兵庫の115人と、ここまでがトップ6で100人以上。100人を割った次点では三重の91人となっている。

北の北海道からは29人が京都へ。南の沖縄からは20人だった。なお、男子だけでは大阪152人、愛知120人、京都112人、神奈川と東京が101人、兵庫93人が上位。女子の順位は神奈川32人、京都29人、愛知と東京27人、兵庫22人、大阪20人が上位となっている。

次に競技について。種目別・年齢クラス別ではどの競技で参加者数が多かったのか、を見てみよう。

リレーを除いて男女合計では、スプリントを競う短距離が人気のようだ。100mが664人、次いで200mが357人と飛び抜けている。3番目の400mも236人と、スプリント種目が上位3を占めた。

短距離のほかは中距離で1500mに227人、800mに180人がエントリーした。この間に割り込んだのが走幅跳の212人だ。この後は砲丸投とやり投の145人。また円盤投が140人と投てき種目が続く。以降、三段跳119人、走高跳111人と、ここまでが100人以上の種目である。ただし、1人で種目を掛け持ちしている人も。

対照的に最も参加数が少なかったのは200mHで、男子3人、女子1人の4人だけだった。

年齢クラス別では男子のM50クラスが385人でトップ。次がM55クラスの318人で50～59歳までの人が最も多い。この後、250人台がM45、60、65の各クラス。M40は234人とこのクラスまでが230人以上のクラスである。高齢者の方ではM90クラス13人、M95、100が各2人となっているが、年齢クラス別では1人で種目を兼ねている人もおり、実数でないので念のため。